

## IBM (IBM)

オープン・ハイブリッド・クラウド戦略により他社クラウド  
コンピューティングと基幹業務メインフレームを囲い込み

ニューヨーク | IT サービス | 業績フォロー

BLOOMBERG IBM US | REUTERS IBM.N

- 2022/12期3Q (7-9月) は、売上高が前年同期比6.5%増、調整後税引き前利益が同22.6%増。米ドル高が増収率を約9ポイント押し下げた。
- 主要部門全て堅調のなか、AI搭載の基幹業務用メインフレーム新製品「z16」の販売好調でインフラ部門が同14.8%増収と業績を牽引。
- オープン・ハイブリッド・クラウド戦略に基づき、レッドハット買収、キンドリルのスピノフ、基幹業務メインフレーム向けを強化。

## What is the news?

10/18発表の2022/12期3Q (7-9月) は、売上高が前年同期比6.5%増の141.07億USD、昨年のキンドリル社スピノフの影響を除く継続企業に係るNon-GAAPの調整後1株当たり利益 (EPS) が同1.6%減の1.81USD。調整後の税引き前利益は同22.6%増だった。売上高は約20年ぶりの記録的な米ドル高により約9%ポイント押し下げられたものの、全世界でハイブリッド・クラウド導入の進展により主要セグメントの全てが伸長。特に、企業の基幹業務用メインフレーム新製品で、得意分野の人工知能 (AI) 搭載の「z16」販売好調を受けたインフラ部門の牽引が際立った。業績の堅調な推移により営業活動キャッシュフローから設備投資額を引いた現金収支のフリーキャッシュフロー (FCF) も同24.7%増と成長した。

3Qのセグメント別の売上高は、①ハイブリッド・プラットフォーム&ソリューション、トランザクション・プロセッシングの「ソフトウェア」が前年同期比7.5%増の58.11億USD、②ビジネス変革、テクノロジー・コンサルティング、およびアプリケーション運用を営む「コンサルティング」が同5.5%増の47.00億USD、③ハイブリッド・インフラストラクチャーおよびインフラ・サポートを含む「インフラ」が同14.8%増の33.52億USD、④金融を含む「その他」が同47.6%減の2.44億USDだった。

## How do we view this?

22年度通期会社計画は、為替の影響を除く売上高の前期比成長率を1桁台半ばより高い水準 (従来計画1桁台半ば) と上方修正。FCFは引き続き前期比54%増の100億USDとした。Amazon Web ServiceやMicrosoft Azure、およびGoogle Cloudといった大手パブリック・クラウドがそれぞれ3Qで前年同期比27%、35%、38%と成長のなか、既存の企業保有 (オンプレミス) 基幹業務システムをクラウドに移行できない事情を抱えた企業も多い。そこでIBMはあらゆるベンダーのクラウドとオンプレミスの最適な機能を統合する「オープン・ハイブリッド・クラウド」戦略を掲げ、オープンソースのソフトウェア大手レッドハット買収に加え、ITインフラ保守運用部門についてIBMの色が付かないようキンドリル (KD) としてスピノフ上場させた。その上で基幹業務メインフレーム向けAI搭載の高機能新製品を提供など、経営戦略の着実な打ち手が奏功し始めた模様だ。

## 業績推移

※参考レート 1USD=137.18円

事業年度	2019/12	2020/12	2021/12	2022/12F	2023/12F
売上高(百万USD)	57,714	55,179	57,351	59,977	60,482
当期利益(百万USD)	9,431	5,590	5,743	-318	3,754
EPS(USD)	10.56	6.23	6.35	2.26	5.36
PER(倍)	13.97	23.68	23.23	65.27	27.52
BPS(USD)	23.49	23.07	21.05	26.82	41.76
PBR(倍)	6.28	6.39	7.01	5.50	3.53
配当(USD)	6.43	6.51	6.55	6.65	6.82
配当利回り(%)	4.36	4.41	4.44	4.51	4.62

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg)

A member of PhillipCapital

配当予想(USD) **6.65** (予想はBloomberg)  
 終値(USD) **147.50** 2022/12/6

## 会社概要

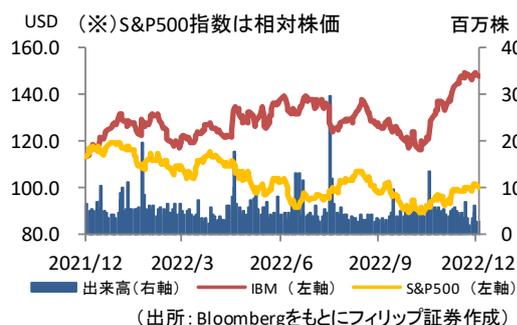
1911年設立で世界175か国超で事業展開する多国籍IT企業。IT産業の環境変化を受け、事業再編を推進。PCやサーバー、半導体製造など各ハード部門を譲渡し、現在はコンピュータ関連のサービスとして、ソフトウェア部門、コンサルティング部門、インフラ部門に注力。

あらゆるベンダーのクラウドや従来の会社保有IT環境 (オンプレミス) の最適な機能を統合することを目指すオープンな「ハイブリッドクラウド」戦略の強化に向け、2019年にオープンソースソフト大手のレッドハットを約340億ドルで買収したほか、2021年には自社IT環境以外にもオープンに手掛けやすいようにITインフラの運用・保守などを手がける部門を切り離し、「キンドリル (KD)」としてスピノフ上場させた。

- ソフトウェア部門は、ハイブリッド・プラットフォーム&ソリューション、トランザクション・プロセッシングを手掛ける。
- コンサルティング部門は、ビジネス変革、テクノロジー・コンサルティング、およびアプリケーション運用を営む。
- インフラ部門は、ハイブリッド・インフラストラクチャーおよびインフラ・サポートを含む。

## 企業データ (2022/12/6)

ベータ値 0.72  
 時価総額(百万USD) 133,359  
 企業価値=EV(百万USD) 177,687  
 3か月平均売買代金(百万USD) 615.5



主要株主 (2022/12) (%)  
 1. VANGUARD GROUP 8.75  
 2. ブラックロック 7.73  
 3. ステート・ストリート 5.88  
 (出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

## リサーチ部

笹木 和弘  
 kazuhiro.sasaki@phillip.co.jp  
 +81 3 3666 6980

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL: 03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得る場合があります。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平14.1.25」に基づく告知事項>

- ・本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。